



異年齢で遊ぶことの大切さ

～「縦割り班」活動始動！～



私たちの幼少期の遊び場は、近所の公園や空き地でした。約束もなく遊び場に行くと、集まったメンバーで遊びが始まったものです。そこには、同級生もいれば、お兄さんお姉さんも、また自分より小さい子もいて、みんなが楽しめる遊びや遊びの中でのルールを試行錯誤しながら遊んでいたことを思い出します。

ただ、最近は遊び場所の環境の変化や、ゲーム機の普及による遊びの内容の変化など、「異年齢の関わり」や「大人数の関わり」が少なくなっているのが現状です。このような経験から得られる「年下の子を思いやる心」や「お兄さんお姉さんへの憧れの気持ち」を育む機会が減少していることに危機感を感じているところです。



まずは、自己紹介から

そこで、不知火小学校では、このような「異年齢」のかかわりを学校内で意図的に仕組む事としました。1年から6年までからなる班を作り、この「縦割り班」で、様々な活動しようというものです。先日、グループで顔合わせを行い、お兄さんお姉さんである高学年のリードで、まずみんなで仲良く遊ぶ計画を立てました。今後は遊びだけでなく、様々な活動にも取り組んでいきたいと思っています。

子供たちは、この活動の中からたくさんの事を感じ、そして学んでくれるものと期待しています。



遊ぶ時間や内容も話し合いながら・・・

自分の命は自分で守る ～ 着衣水泳 ～

本格的な夏の到来の前に、ニュースでは水に関する痛ましい事故の報道が絶えません。海や川での水遊びは、夏の大きな楽しみですが、常に命に関わる危険性が潜んでいます。

そこで、5、6年生は「突然、川や海に落ちたらどうするか」をテーマに、着衣水泳に取り組みました。当日は、宇城広域連合消防本部から現役の消防士の方においていただき学びを進めました。



ポイントは、「泳ぐ」ではなく、「浮いて、待つこと」



「かけはし」のカラー版は、学校ホームページからご覧いただけます。

